

目次

本書の使い方

1. 本書の構成と使い方
2. 本書で用いられる主な記号
3. 本書（下巻）で用いられる主な略語

第 8 講 動詞.....253

§ 51. 動詞の概要.....253

1. 語根と語幹.....253
2. 動詞の活用.....254
3. オーグメントと語根の重複.....261

§ 52. 動詞活用の組織.....262

1. 特別時制 (Special tenses and moods, Conjugational tenses and moods)263
2. 一般時制 (General tenses and moods, Non-conjugational tenses and moods)263
3. 複合時制 (Compound tenses and moods)264

4. 動詞語根から直接つくられる準動詞	264
5. 受動活用 (Passive conjugation)	264
6. 第二次活用——派生動詞の活用 (Conj. of Derivative verbs)	264
§ 53. 人称語尾	265
1. 第一次語尾と第二次語尾	266
2. 願望法の人称語尾 (語幹母音 a と願望法の標識をとまなう)	267
3. 命令法の人称語尾	268
I ● 現在組織	269
[1] 第 1 種活用	269
§ 54. 語幹の強弱とアクセント	269
§ 55. 第 1 種活用動詞の語幹形成と活用	270
1. 語幹形成	270
2. 活用	272
§ 56. 第 1 種活用動詞の活用例	273
§ 57. 特殊な語幹を形成する第 1 種活用動詞	275
1. ccha で終わる語幹を形成する動詞	275
2. 語根の母音を長音化する動詞	276
3. Samprasāraṇa が起こる動詞	276
4. 語根の鼻音が消失する動詞	276
5. 鼻音を挿入する動詞	276
6. 語根の音を重複する動詞	276
7. 現在語幹として別の動詞 (語根) を代用する動詞	277
8. その他	277
§ 58. 願望法	277
§ 59. 命令法	278
練習問題 6	278

[2] 第 2 種活用	281
§ 60. 第 2 種活用動詞の語幹形成と活用	281
1. 語幹形成	281
2. 活用	281
§ 61. 第 2 類動詞 (語根)	284
1. 語幹形成と活用	284
2. 活用例	284
§ 62. 注意すべき第 2 類動詞と活用例	292
§ 63. 第 3 類動詞 (語根)	297
1. 語幹形成と活用	297
2. 活用例	299
§ 64. 第 5 類動詞 (語根)	306
1. 語幹形成と活用	306
2. 活用例	306
§ 65. 第 7 類動詞 (語根)	310
1. 語幹形成と活用	310
2. 活用例	311
§ 66. 第 8 類動詞 (語根)	315
1. 語幹形成と活用	315
2. 活用例	316
§ 67. 第 9 類動詞 (語根)	319
1. 語幹形成と活用	319
2. 活用例	320
練習問題 7	323
II ● アオリスト組織	326
§ 68. アオリストの種類と特徴および活用形	326
§ 69. 語根アオリスト	328

1. 語幹形成と活用	328
2. 活用例	329
§ 70. a アオリスト	330
1. 語幹形成と活用	330
2. 活用例	332
§ 71. 重複アオリスト	332
1. 語幹形成と活用	332
2. 活用例	334
§ 72. s アオリスト	335
1. 語幹形成と活用	335
2. 活用例	337
§ 73. iṣ アオリスト	338
1. 語幹形成と活用	338
2. 活用例	340
§ 74. siṣ アオリスト	341
1. 語幹形成と活用	341
2. 活用例	342
§ 75. sa アオリスト	343
1. 語幹形成と活用	343
2. 活用例	344
§ 76. 指令法	346
§ 77. 祈願法	346
1. Parasmaipada	346
2. Ātmanepada	349
練習問題 8	352
III ●完了組織	354
§ 78. 二つの完了の特徴	354

§ 79. 重複完了(単純完了)	354
1. 語根の重複	355
2. 語幹の強弱	356
§ 80. 重複完了の活用	357
1. 人称語尾	357
2. 結合母音 i	358
§ 81. 中間に i, u, r をもつ語根	359
1. 語幹形成	359
2. 活用	359
3. 活用例	359
§ 82. 中間に a をもつ語根	360
1. 語幹形成	360
2. 活用	362
3. 活用例	363
§ 83. 母音で終わる語根	366
1. i, ī, u, ū, r, ṛ で終わる語根	367
2. ā および二重母音で終わる語根	372
§ 84. 母音で始まる語根	374
1. 語幹形成	374
2. 活用	375
3. 活用例	375
§ 85. 特殊な形式にしたがう語根	377
1. 語幹形成および活用	378
2. 活用例	379
§ 86. 複合完了	380
1. 複合完了の形成	380
2. 活用	382
3. 活用例	382
練習問題 9	385

IV ● 未来組織	387
§ 87. 単純未来 (未来)	387
1. 語幹形成	387
2. 活用	390
3. 活用例	390
§ 88. 条件法	391
1. 語幹形成と活用	391
2. 活用例	392
§ 89. 複合未来	393
1. 語幹形成と活用	393
2. 活用例	395
練習問題10	396
V ● 受動活用 (受動態)	398
§ 90. 現在組織の受動活用	399
1. 語幹形成	399
2. 活用	401
3. 活用例	401
§ 91. 現在組織以外の受動活用	404
1. アオリストの受動活用	404
2. 完了の受動活用	407
3. 未来・条件法・祈願法の受動活用	408
練習問題11	410
VI ● 派生動詞の活用 (第2次活用)	412
[1]使役活用	412

§ 92. 現在組織の使役活用	412
1. 語幹形成	412
2. 活用	415
3. 活用例	416
§ 93. 現在組織以外の使役活用	418
1. アオリストの使役活用	418
2. 完了の使役活用	421
3. 未来の使役活用	422
4. 条件法・祈願法の使役活用	424
[2]意欲動詞	425
§ 94. 意欲活用	426
1. 現在組織の意欲活用	426
2. 現在組織以外の意欲活用	433
3. 第10類動詞・使役動詞の意欲活用	436
4. 意欲動詞の語幹から派生した名詞・形容詞	436
[3]強意活用	437
§ 95. 強意活用	438
1. Ātmanepada の強意活用	438
2. Parasmaipada の強意活用	445
[4]名詞起源動詞	449
§ 96. 名詞起源動詞	449
1. 接辞を加えない場合 (kvip)	449
2. 接辞 ya (P.) を加える場合 (kyac)	451

3. 接辞 ya (A.) を加える場合 (kyañ)	453
4. 接辞 aya (<i) を加える場合 (ñic, ñih)	455
練習問題12	457

VII ● 準動詞

[1] 現在・完了・未来・過去分詞

§ 97. 現在・完了・未来・過去分詞の態	460
§ 98. Parasmaipada の現在分詞・未来分詞	460
1. 語幹形成	461
2. 格変化	464
§ 99. Ātmanepada の現在分詞・未来分詞	464
1. 語幹形成	464
2. 格変化	466
§ 100. 受動態の現在分詞・未来分詞	466
1. 語幹形成	466
2. 格変化	467
§ 101. 過去受動分詞	467
1. 語幹形成	467
2. 格変化	473
§ 102. 完了分詞	473
1. P. 完了分詞	474
2. A. 完了分詞	476
§ 103. 過去能動分詞	477
1. 語幹形成	477
2. 格変化	478

[2] 未来受動分詞 (動詞的形容詞)

§ 104. 未来受動分詞	478
1. 語幹形成	478
2. 格変化	483

[3] 絶対分詞

§ 105. 絶対分詞	483
1. 接尾辞 tvā — tvā 絶対分詞	484
2. 接尾辞 ya — ya 絶対分詞	487
3. 接尾辞 am — am 絶対分詞	490

[4] 不定詞

§ 106. 不定詞	491
練習問題13	492

第 9 講 不変化辞 (副詞・前置詞・接続詞・間投詞)

§ 107. 副詞	495
1. 代名詞の格変化形,あるいは代名詞の語基からつくられる副詞	495
2. 形容詞の副詞化	495
3. 名詞の副詞化	496
4. -tas, -tra, -dā などの接尾辞を加えてつくるもの	497
5. 本来の副詞および不変化辞	499
§ 108. 前置詞	500
1. 前置詞	501
2. 前置詞的副詞	502
3. 名詞の格変化形の前置詞化	505
4. 動詞の絶対分詞の前置詞化	506

§ 109. 接続詞	507
1. 対等の関係をあらわす接続詞	507
2. 従属関係をあらわす接続詞	509
§ 110. 間投詞	510
1. 本来的な間投詞	510
2. 意味をもつ語から派生した間投詞	511

第 10 講 複合語 513

I ● 名詞複合語 513

§ 111. 名詞複合語の構造と種類	513
1. 複合語の構造	513
2. 複合語の種類	516
§ 112. 並列複合語	516
1. 相互的並列複合語	516
2. 集会的並列複合語	517
3. 並列複合語における支分の順序	519
4. 前分と後分とがともに形容詞（過去受動分詞を含む）である並列複合語（〔形容詞＋形容詞〕）	520
§ 113. 限定複合語	521
1. 限定複合語における支分の語形	521
2. 格限定複合語の基本形式	524
3. 特別の形式をとる格限定複合語	531
§ 114. 同格限定複合語	533
1. 同格限定複合語の基本形式——修飾語を前分、被修飾語を後分とする <i>Kdh.</i> (<i>viśeṣaṇapūrvapada-karmadhāraya</i>)	533
2. 被修飾語を前分、修飾語を後分とする <i>Kdh.</i>	537
3. 前分と後分が同格関係にある <i>Kdh.</i>	538

4. 前分あるいは後分が比喩をあらわす <i>Kdh.</i>	539
5. 前分・後分ともに形容詞の <i>Kdh.</i> (<i>viśeṣaṇa-ubhayapada-karma=dhāraya</i>)	540
6. 特別の形式をとる <i>Kdh.</i>	541
§ 115. 数詞限定複合語	543
1. 集合名詞となる <i>Dg.</i> (<i>samāhāra-dvigu</i>)	543
2. 派生的な意味をもつ <i>Dg.</i>	544
§ 116. 所有複合語	544
1. 所有複合語の性と支分の語形	545
2. 所有複合語の基本形式	548
3. 特別な形式をとる所有複合語	551
4. 所有複合語を基礎とする種々の表現のうちで頻繁に用いられるもの	552
§ 117. 不変化複合語	554
1. 不変化複合語の語形	554
2. 不変化複合語の基本形式	556
3. その他の副詞複合語の形式	558

II ● 動詞複合語 559

§ 118. 動詞複合語	559
1. 接頭辞と語根とのあいだの連声	559
2. 接頭辞の機能・位置	561
3. 動詞複合語の基本形式	562

補講 名詞造語法 569

I ● *Krt* 接尾辞 570

II ● Taddhita 接尾辞	582
1. 使用語幹の特徴と語幹の母音の音変化	583
2. 主要な Taddhita 接尾辞	584
[附] Samāsānta について	599
1. -a	599
2. -ka	600
練習問題の解答	603
附録1 参考書・辞典	621
A. 和文の参考書	621
B. 欧文によるもの	622
C. インド語によるもの(サンスクリット, ヒンディー)	630
D. 発音・会話など	633
E. 辞典	636
F. 読本	639
附録2 サンスクリット辞典の用法	641
I. 辞典を引く前に理解しておくべきこと	642
1. 辞典の編集方針と特色を理解すること	642
2. サンスクリット辞典が使用している文字を知ること	642
3. 略語表・符号表などに注意すること	645
4. 辞典の附録・補遺を活用すること	646
II. 収録語の扱い方・見出し語の立て方	646
1. 収録語と見出し語	646
2. 見出し語の配列順序	648
III. 見出し語の解説内容と形成	652

1. 動詞	653
2. 名詞・形容詞	659
IV. サンスクリット辞典を引いてみよう	665
1. 実例文	665
2. 注意すべき点	671
あとがき	673
索引	675
凡例	677
サンスクリット索引	680
日本語索引(英語対応)	710